

『隙間を埋める』 ～ 『解消できる道』 ～

2026 年 8 月 11 日(山の日)『軽井沢がん哲学外来カフェ』(軽井沢南教会に於いて)の講演会(画像)に赴いた。軽井沢駅は多数の来客であった。宮澤豊牧師 先生が、軽井沢駅に車で向かいに来て頂いた。外の景色を観ながら心が癒された。

【がんを告知されてから、あなたが考える『悩み・不安・想い・願望』などを直に聴いて『解消できる道』を一緒に探し『医療の隙間を埋める』活動です。がんを患うご本人だけでなく、支えられている家族の方々の相談も行います。今や世界的にも注目されている『がん哲学外来 メディカル・カフェ』是非どなた様もお気軽にご参加ください。2017 年 10 月 17 日第 1 回『がん哲学外来カフェ』が軽井沢南教会にて開催されました。】と紹介されている。東京からも参加されていた。

筆者にとっては、内村鑑三(1861-1930)と新渡戸稲造(1862-1933)の所縁のある軽井沢の内村鑑三の『石の教会』、新渡戸稲造の『軽井沢夏季学校』は、若き日から『特別の想い』がある。2013 年【新渡戸稲造没 80 周年・新島襄生誕 170 周年記念『“軽井沢”がん哲学外来講演会 ～ がん哲学外来の源流 ～』】が軽井沢で開催されたことが、今回 鮮明に蘇ってきた。

『人生の目的は品性の完成にある』(内村鑑三)

『あなたは、そこにいるだけで価値ある存在』(新渡戸稲造)

の復習である。

8 月 12 日は、『目白がん哲学外来カフェ 代表・担当者：森尚子氏』の企画されている『第 121 回 目白がん哲学外来カフェ 10 周年記念』(目白町教会に於いて)から『樋野興夫先生特別講演会と面談 & カフェ参加者によるディスカッション』(画像)を依頼された。『10 周年記念誌の作成』も企画される様である。ただただ感服する。

【樋野興夫先生(順天堂大学名誉教授 医学博士)の提唱により始まった『がん哲学外来カフェ』は対話と寄り添いの場です。生きる意味や、これからの生き方、身近な生活のことなど、一緒に考えたり、共有したりしていきませんか。病気に悩む方、ご家族・ご遺族、どなたでもお気軽にご参加ください。お待ちしております。】と掲載されている。

お茶を飲むしかありません。ですから、私の対話にはお茶が必要です。

樋野興夫

病理医の『がん哲学外来へようこそ』から。苦しみを分かちあいたいと思うなら、まずは話してもらうこと。人は苦しみを語ることで僅かながらもそれに距離を置ける。聴くことの意味はそこにあるが、話すほうは、話しても他人には所詮伝わらず、苦しみの意味を問うても答えはないと知っている。だから聴く側も、無理を強わずにただただ待つしかない。茶碗に手でも添えて。

2018・3・3

